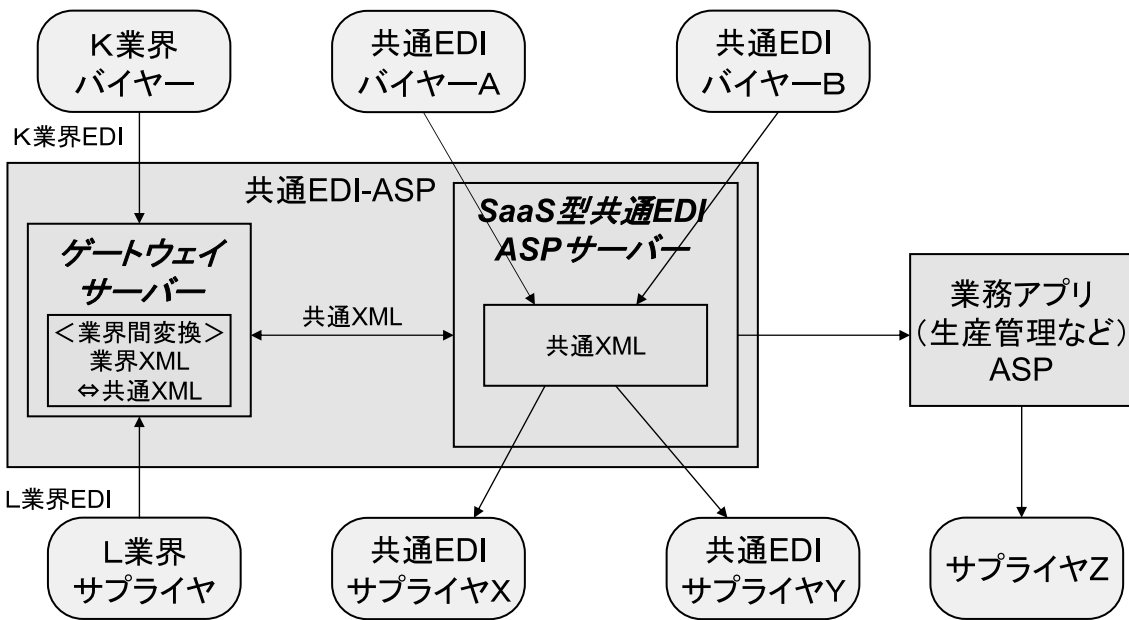


TISなど4グループ “多画面現象”の解消へEDI実証実験

EcoChangeの基本コンセプト

- EcoChangeは各社独自フォームの取引データを相互に変換するサービスを提供する。ユーザー企業は自社のデータフォームでEDI接続できる



中小企業の負担減へ

1画面で全取引先の受注に対応

企業間取引でwebEDIの導入が進んでいる。だが企業ごとに仕様が異なることから、webEDIで注文を受ける側は取引先に画面の切り替えやデータの入力作業が必要で、中小企業にとって大きな負担になっている。これを解消するため経済産業省が今年度から「ビジネスインフラ事業」をスタートする。業種を超え多くの企業が受発注などのデータ交換に標準EDIを利用できる仕組みを構築し、その実証を行う。三年間で一万社への導入を目指している。（フリージャーナリスト・内田三知代）

複数の取引先からwebEDIで注文を受ける場合、取引先によって仕様が異なり、webEDIでは、取引先から送られた受注情報などのデータを取り込む必要があり、その都度、データを切り替える必要が生じる。また、複数の取引先から受注を受け取る場合、それぞれの受注情報を取り込む必要があり、作業が非常に多い。EcoChangeは、このような「多画面現象」を解消し、1画面で全取引先の受注に対応できるようにする。これにより、中小企業の負担が大幅に軽減される。EcoChangeは、各社独自のデータ形式を標準的なEDI形式に変換し、1画面で全取引先の受注を受け取ることができる。また、EcoChangeは、SaaS型のサービスを提供するため、中小企業は大きな初期投資やメンテナンスの負担を軽減できる。EcoChangeの実証実験は、今年度から開始され、三年間で一万社への導入を目指している。

近年、インターネットの普及とともに企業間でwebEDIを使ったEDIが急速に拡大した。webEDIは容易にシステムを構築でき、VANなどの専用回線によるEDIと比べて、安価での導入が可能とされている。

直さなければならぬ。このように現状のwebEDIは、本来の意味での電子データ交換が行われていない。点に大きな問題がある。昨今は、メーカー間で列を超えた取引や異業種と普及によって、発注側では自社の基幹システムから発注情報などを、中少企業を含む多くの取引先が送ることが可能になった。その一方で、受注側では電子データ交換のメリットを享受できないばかりか、画面切り替えや再入力の手間が増え、複数の企業と取引する中小企業にとって大きな負担になっている。

「エコチェンジ」改造LEDシステム開発。この「EcoChange」は、今年度は四つのグループが自動車部品メーカーや電子機器メーカーなどをユーザーとして実証実験を行い、来年度から本格的な普及を目指す。経済産業省では三年後に一万社への導入を目指す。

「EcoChange」は、今年度は四つのグループが自動車部品メーカーや電子機器メーカーなどをユーザーとして実証実験を行い、来年度から本格的な普及を目指す。経済産業省では三年後に一万社への導入を目指す。

「EcoChange」は、今年度は四つのグループが自動車部品メーカーや電子機器メーカーなどをユーザーとして実証実験を行い、来年度から本格的な普及を目指す。経済産業省では三年後に一万社への導入を目指す。